

# 次なる目標は 兄妹そろってのW優勝

## 羽島市が生んだ空手のスゴキッズ 重松佑星くん・亜実衣ちゃん

羽島市立正木小学校に通う重松佑星くん(小5)と亜実衣ちゃん(小2)は、将来の活躍を期待されている注目の空手選手です。2020年に行われた「第8回全日本ジュニアチャンピオンシップ空手道選手権」では、兄の佑星くんが準優勝に輝くなど、兄妹揃ってさまざまな大会で好成績を収めています。

### 東京五輪で初の正式種目に「空手のココが魅力」

日本発祥の武道であり、世界約200カ国に愛好家がいるという空手。日本各地に道場があり、大人から子どもまで幅広い層に親しまれています。ルーツは諸説あるものの、沖縄特有の護身用の武術が発祥だとする説が有力です。中国や東南アジアとの交易が盛んだった琉球王国は、大陸のさまざまな文化を取り入れ、そのなかで「ティー(手)」と呼ばれた武術が、「唐手」へと変化していきました。そして、明治に入る頃には、現在の「空手」という呼び名になったとされています。空手には、大きく分けて「形」と「組手」の2つの種目があります。「形」では演武の速さ、力強さ、美しさなどを競います。「組手」は一人対一人の対戦形式。顔や腹部などの決められた部位を狙い、「突き」「打ち」「蹴り」といった技を繰り出し、勝敗を競います。技の緩急や強弱、流れの美しさと共に、迫力あふれる戦いが繰り広げられるのが何よりの魅力です。



上)2021年4月に開催された富山県空手道選手権大会では兄妹揃って優勝を飾りました。下)亜実衣ちゃんの誕生日パーティー時の写真。自宅では愛犬と遊んだり、ゲームをしたり、兄妹仲が良すぎるあまり、よくケンカをしているそう

人見知りを克服しようとして心身を鍛えるために道場へ

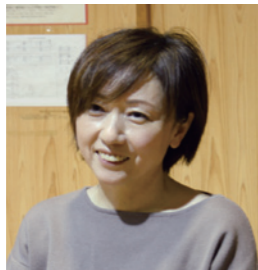
重松佑星くんが空手を習い始めたのは保育園の年中の頃でした。「極度の人見知りを克服して、心身ともに強くなってもらいたい」。そんな母・直美さん



大心館空手道では、「ありがとう」「すみません」と大きな声で挨拶ができ、人の痛みを思いやることのできる心豊かな子どもたちを育てています。2人はこの道場で平日4日間、19時~21時まで練習しています



NPO法人大心館空手道理事長 竹畑友二さん



佑星くん、亜実衣ちゃんの母 重松直美さん



得意技は下突きです

んの願いのもと、道場へ見学に訪れたのが競技との出会いでした。見学したのは、愛知県一宮市の「NPO法人大心館空手道」。30年以上前から幅広い層に空手を指導し続ける歴史ある道場です。「最初に練習を見た時、すごいと思った」と当時を振り返る佑星くん。戦隊ヒーローが大好きだった影響から、すぐさま競技に魅了され、道場に通おうと決意しました。以来、6年

にわたって技を磨いています。低学年の頃は、試合に出場しても負けてばかりで悔しい思いをたくさん経験。しかし、これまで熱心に励んできた努力は着実に実を結び、小学4年生の時に出場した第8回全日本ジュニアチャンピオンシップでは準優勝に輝きました。

この大会は、組手のなかでも対戦相手に直接打撃を加えるフルコンタクト制。小学生の部は1分半の試合時間内で、技の応酬を繰り返す。全国で2位になって、自分に自信が持てるようになりました」と佑星くん。「いつも以上に手数を、足数を出せたのが結果につながりました。練習の成果をしっかりと出せてよかったです」

現在小学5年生になった佑星くんが出場するクラスは、体重35kgを基準に軽量級・重量級に分かれて試合を行います。佑星くんの体重は35kg台のため、ギリギリの差で重量級に入ってしまう。体格に勝る相手と互角に戦うために、長所であるスピードに磨きをかけています。

一方、妹の亜実衣ちゃんが習い始めた理由は「お兄ちゃんみたいになりたくて」と思ったから。直美さんと一緒に練習に付き添ううちに自然と興味を持ち始め、佑星くんと同じ年中の頃から道場に

通い始めました。佑星くんが大活躍した第8回全日本ジュニアチャンピオンシップでは、亜実衣ちゃんも力を発揮

来年の全国大会出場をかけた試合で、見事優勝を飾ったのです。強くなるために心がけているのは「真剣さ」。「いつもの練習で組手をする時も、試合だと思って真剣に頑張るようにしています」と亜実衣ちゃんは話します。

単に試合に勝つだけでなく人間としての成長も実感

2人の活躍ぶりに、「もともと運動神経が優れているのでは?」と思いきや、大心館空手道の理事長を務める竹畑友二さんは、「面白いもので2人を見てみると、運動神経がものすごくいいタイプではあります」と教えてくれました。

「空手のフルコンタクトは、子どもたちにとっては我慢比べ。相手の打撃が当たれば当然痛いですが、試合ではそれに耐えなければいけません」

厳しい練習を続けるなかで養ってきた忍耐強さこそが、2人の強さの原動力。「今後は試合で優秀な成績を収めるだけでなく、黒帯を取って後輩の指導も覚えてほしい」と竹畑さんは期待を寄せています。

ます。

兄妹の確かな成長を日々実感しているのが、練習や試合への送迎をはじめ、食生活に配慮するなど、ずつと傍で見守り支えてきた直美さん。人見知りだった佑星くんは空手を通じて積極的になり、今では学級委員を務めるようになったそう。年下の子や、困っている同級生には自分から声をかけられるようになり、「試合に勝つだけでなく、人間的にも成長してくれているのがうれしいですね」と笑みを見せます。

空手の面白さについて2人に聞くと、「頑張ってきたことが、ちゃんと試合結果に出るところです」と語ってくれた佑星くん。「全国大会に向けて練習を重ね、次こそ優勝したい!」という言葉に、亜実衣ちゃんも「お兄ちゃんと一緒に全国大会で1位になりたい」と力強く目標を話してくれました。

切磋琢磨しあう2人の兄妹はこれからどのように成長するのでしょうか。羽島市が生んだ空手のスゴキッズたちの今後の活躍をぜひみんなで見守りましょう!